

7 研修報告

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第42回大会

龍郷町教育委員会事務局
主査 重田 美咲

1 日程〔会場：福岡県立社会育総合センター〕

1日目：令和7年5月17日（土）

- 10:15～10:25 開会式
- 10:30～12:20 実践発表①（4会場×3コマ）
- 13:50～15:40 実践発表②（4会場×3コマ）
- 16:00～16:30 特別報告「教育が社会を変える～今こそ意識改革～」
- 17:00～19:00 第42回交流会

2日目

- 9:00～11:30 特別企画「青少年教育の原点と「未来の必要」
～今、改めて問い直す釈迦教育の役割～
【第1部】家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割
【第2部】子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力
- 11:30～12:00 総括・閉会式

2 研修報告

実践発表①

- (1)持続可能な地域学校共同活動事業に向けて～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～
発表者：安徳 和幸（福岡県八女市）八女市黒木公民館 館長
- (2)奄美群島日本復帰70周年記念の取り組み
発表者：野村 貴幸（鹿児島県大島地区）大島教育事務所 社会教育主事兼専門員
- (3)公民館は可能性の塊!!～地域を耕し、人をつなげ、住民から愛される公民館～
発表者：圓山 洋輔（島根県鹿足郡吉賀町）柿木公民館 主事

実践発表②

- (4)「市子連」と「市教委」が両輪となった空前絶後の子ども会活性化策
発表者：中村 明博（鹿児島県鹿屋市）鹿屋市教育委員会生涯学習課 主査
- (5)「冒険的組織」と「弱いつながりの強さ」から生み出す地域と学校の変革
～岡山県高梁市の学校地域の共創事例～
発表者：横山 弘毅（岡山県高梁市）Happy Collaboration 合同会社代表
- (6)子どもも大人も心が軽くなる居場所づくりに関する研究
～こころの銭湯「まんまある」の取り組み～
発表者：貞平 理恵（山口県防府市）

3 まとめ

本大会では、各地域における実践事例の成功要因が共有され、参加者間の対話およびフィードバックを通して、今後の社会教育の方向性について検討が行われた。

行政・学校・地域の垣根を越えた連携の更なる深化と、対話を文化として定着させることが、持続可能な人づくりと地域活性化の推進に不可欠であることが確認され貴重な学びの機会となった。多くの実践事例や交流を通し、貴重な学びの機会となった。今後の業務に生かせるよう努めていきたい。

第76回九州地区公民館研究大会佐賀大会

鹿屋市教育委員会生涯学習課
中央公民館長 内山 信一

1 日程 【会場：佐賀市文化会館】

- 1日目 令和7年8月28日（木）13:30～16:30
分科会（事例発表①、事例発表②、選択制）
- 2日目 令和7年8月29日（金）9:30～12:30
アトラクション、開会行事、記念講演、閉会行事

2 研修会報告

(1) 分科会（第1分科会）

ア 討議のテーマ 「地域課題解決」

イ 事例発表①

「持続可能なまちづくりの取組について」（鹿児島県薩摩川内市）

- ・ コミュニティ協議会事務局の負担軽減（資料や議事録の作成）の工夫
- ・ 各部会の事業について部内で主体的に話し合い、自立した運営に移行
- ・ 地域が抱える課題や自治会の課題、個々が思う疑問や情報なども共有
- ・ 地区内の任意団体代表者との連絡会を開催し、連携してイベントを実施

ウ 事例発表②

「若い世代をまちづくりに」（佐賀県武雄市）

- ・ 若い世代に公民館に来てもらう工夫（若年層向け講座、チラシ作成、SNS等）
- ・ 若い世代が参加するイベントの工夫（アウトドア、竹細工やピザ作りの体験等）
- ・ 若い世代限定のワークショップ（まちの魅力や課題、やりたいことの意見交換）
- ・ 若者同士が顔見知りになることにより、公民館とのつながりができ、公民館事業への関心・興味を醸成

(2) 記念講演

ア 講師 リンクタイズ株式会社 取締役 ForbesJAPAN 編集長 藤吉 雅春 氏

イ 演題 「人の行動力を変える公民館 アイデア事例の大ブレスト大会」

- ・ 公民館に人を集めるためには、行動力が非常に重要である。
- ・ 人間が本来持っている社会的役割に光を当てると、人は動くようになり「向社会的行動」を取るようになる。
- ・ 公民館運営は、短期思考ではなく、長期思考で考えていく必要がある。
- ・ これからの公民館事業においては、アイデアの発想力とその実現が大切である。

3 まとめ

今回、九州地区公民館研究大会に参加し、大変有意義な時間を過ごすことができた。

1日目の分科会では「地域課題解決」をテーマにした事例発表で、地域課題の解決に積極的に取り組む公民館の在り方や地域における関係機関や団体等との連携について学ぶことができた。また2日目の記念講演では「人を集めるにはどうしたらよいか」「人を動かすにはどうしたらよいか」等、当日の参加者から事前に寄せられた悩みごとや困りごと、改善したい点等について会場の参加者と自由に意見交換しながら新しい発想や解決策を共有することができた。二日間の研修で学んだことや得たものを今後の業務において生かしていきたい。

第76回九州地区公民館研究大会佐賀大会

鹿児島市喜入公民館

主査 橋本 佳澄

1 研修会の日程

- 1日目：分科会
- 2日目：開会行事 記念講演 閉会行事

2 研修会の報告

(1) 第2分科会報告 討議のテーマ「地域資源の活用」

ア 「地域資源であるモノ（者と物）を活用した滑石公民館の活動」

【発表者】長崎県長崎市滑石公民館長 松尾 隆 氏

【内 容】大型公民館では唯一所有している、陶芸窯（物・モノ）と陶芸の技術を持った自主学习グループのメンバー（者・モノ）の双方を最大限活用した講座を開催している。また、公立小学校から移管されたタブレット端末（物・モノ）を活用した高齢者向け「タブレット体験教室」を実施することで、デジタルデバイス解消に努めている。

【課 題】公民館が地域住民にとって「きっかけ」づくりの場となり、気軽に集える場となるよう、様々な工夫を講じる必要がある。

イ 「ITを活用した人材育成」

【発表者】宮崎県高鍋町中央公民館長 瀬川 芳一 氏

【内 容】公民館内にあるITセンターでは、「企業版ふるさと納税」を活用し、高速ネット環境を整備している。また、町の誘致企業に運営を委託することで、より専門性の高い指導者によるICT講座が開設できている。中でも、高齢者向けのeスポーツ体験は、大変好評である。

【課 題】既存講座のブラッシュアップと魅力ある事業を展開することにより、ITセンターの更なる利活用を図る。

(2) 記念講演報告

【講師】リンクタイズ株式会社取締役 Forbes JAPAN 編集長 藤吉 雅春 氏

【演題】 「人の行動力を変える公民館 アイデア事例の大ブレスト大会」

【内容】 那覇市繁多川公民館は、日常的に利用者でにぎわっている。地域活性化の原動力になっているものは、「すぐりむん（地域に働きかけるすばらしい人）」の認定である。「人が『向社会的行動』を取るようになるためのきっかけをどう作るか。」をテーマに会場内の全参加者を対象に行った大ブレスト大会では、参考になる多くの意見が出され、課題を持ち寄ることの意義を感じることができた。

3 まとめ

九州各県における先進的な実践事例の具体を学ぶことができた貴重な機会となった。改めて多面的な視点で「地域資源」を見つめ直し、地域住民のために最大限活用できる公民館運営を推進していきたい。

第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会

鹿児島教育事務所

指導主事 吉永 智雄

1 日程〔会場：アクロス福岡〕

1日目 令和7年11月13日（木）12:20～16:00

分科会

2日目 令和7年11月14日（金）9:30～12:10

開会行事、記念講演、閉会行事

2 研修の報告

第1分科会 つながりづくり 地域づくり

「学校支援で始める地域づくり」（福岡県）

「ダンスがつなぐ、地域の輪」（長崎県）

第2分科会 持続可能な社会の担い手の育成

「沖縄県南城市のまちづくり人材の育成と市民参加のまちづくりの推進」（沖縄県）

「多年齢参加型の公民館活動をとおして」（宮崎県）

第3分科会 誰もが学び続けることができる学びたくなる環境づくり

「eスポーツ×デジタル拠点施設「うきのぼ」（熊本県）

「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境づくり」（佐賀県）

第4分科会 学校・家庭・地域の連携・協働

「自主的な連携・協働を促すためには～川登和紙作りの場合～」（大分県）

「笑顔でつながる持留～世代と地域を結ぶ協働の輪～」（鹿児島県）

記念講演 地域コミュニティを支える社会教育の可能性～県民の日常生

「活」に普段ない「動」きを起こせ！～

3 まとめ

1日目の分科会は、第1分科会に参加した。小学校での支援活動を町全体の事業へと発展させた福岡県の取組や、上対馬でダンスを通して、コミュニティ形成を図った長崎県の活動等、具体的な事例を伺うことができた。いずれの発表でも、後継者不足やボランティアへの依存といった、持続可能な活動の維持に関わるが、課題が挙げられた。2日目の記念講演では、全国でも特に少子高齢化が進む島根県における「小さな拠点づくり」について、社会教育主事が伴走しながら取り組んだ事例が紹介された。今回の学びを、今後の業務に生かしていきたい。



【記念講演の様子】

令和7年度第55回九州ブロック社会教育研究大会福岡大会参加報告

龍郷町教育委員会事務局
事務局長 松尾 昭宏

1 日程〔会場：アクロス福岡〕

- 1日目 令和7年11月13日（木）12：20～16：00
実践発表（分科会、選択制）第4分科会に参加
- 2日目 令和7年11月14日（金）09：30～12：10
開会行事、記念講演、閉会行事

2 研修報告

(1) 第4分科会について

テーマ 「学校・家庭・地域の連携・協働」

討議の視点「社会全体で子どもを育てる仕組みづくり」

事例発表

ア 大分県臼杵市教育委員会社会教育課主幹長田大輔氏より、「川登和紙作りの場合」と題して事例発表をしていただいた。臼杵市では一度は廃れた和紙作りの再興から学校との協働（世界で1つの卒業証書づくり）、地域住民との協働へとつなげた取組を紹介していただいた。

イ 鹿児島県大崎町議会議員（元大崎町教育委員）岡元修一氏より、「笑顔でつながる持留～世代と地域を結ぶ協働の輪～」と題して事例発表をしていただいた。大崎町では、「さくらさくらまつり」や「えんがわカーリング大会」などのイベントを通じて、子供から大人までが賑やかな形で触れ合うことにより、地域の連携を深めているとのことであった。

(2) 記念講演について

演題：「地域コミュニティを支える社会教育の可能性」

講師：島根県教育委員会教育長 野津 建二 氏

島根県では平成の大合併により、59市町村（8市41町10村）が19市町村（8市10町1村）に大幅に減ってしまった。そんな中山間地域で始まったのが、「小さな拠点づくり」公民館エリアを基本単位として、住民の合意形成を図り買い物や交通等、住民生活に必要な機能・サービスの確保に努めているとのこと。また、島根県独自の認証・登録制度をもって、社会教育を支える基盤づくりに努めているとのことであった。

3 まとめ

両日を通じて、社会教育が如何に地域コミュニティを支えているのかを目の当たりにできた。各地域に根付く文化や伝統、または人柄・地域性にフィットした事業を打ち出し、そこに学校・家庭・地域と連携を図りながら展開していく。正に社会教育のあるべき姿を学ぶことができた。私自身、中学生男子バレーボール（クラブチーム）を立ち上げて7年目。各地で頑張っている仲間がいることに勇気もらって、また、今後の業務や社会教育事業を進めるにあたって生かしていきたい。

○ 編集後記

今年度もここに、県内各地の実践を紹介し、社会教育研究誌「あすへの道」を刊行することができました。

本研究誌は生涯学習・社会教育の概要に加え、研修会や夏期セミナーの様子、県内各市町村や団体の取組などをまとめています。今年度から Web 版での発行となったことで、いつでも・どこでも・どなたでも必要な情報にアクセスできるようになり、本県の社会教育の更なる発展につながると確信しております。

さて、「中央教育審議会生涯学習分科会「社会教育の在り方に関する特別部会」審議事項に関する意見の整理」（令和7年3月）では、今後の社会教育の在り方を展望する上で、「対話を通じた主体的な学び合いや他者とのつながり、学びの楽しさなどの特質」を生かすことの重要性が示されました。

「あすへの道」第56号には、まさにこの特質を生かした優れた取組や実践が数多く掲載されています。社会教育の推進に大きく貢献する資料として、ぜひ多くの方々に御活用いただければ幸いです。

終わりに、素晴らしい実践等を御寄稿くださった皆様、編集に携わってくださった皆様、そして本研究会すべての会員の皆様に心より感謝申し上げます。本県の社会教育のますますの発展を祈念いたします。

令和7年度「あすへの道」第56号編集委員長 児浦 由果

令和7年度「あすへの道」第56号編集委員

氏 名	所 属 ・ 職 名
児浦 由果	県立図書館奉仕課 企画指導係長
駿河 純	県教育庁社会教育課 社会教育主事兼専門員
磯部 広伸	県立南薩少年自然の家 研修主事
林 友洋	鹿児島市教育委員会生涯学習課 指導主事
前園 奈津子	鹿児島市立図書館 指導主事
東 泰宏	県立青少年研修センター研修課 研修主任
片野田 隆紀	県立青少年研修センター研修課 研修主事
宇都 孝幸	県立青少年研修センター研修課 研修主事

社会教育研究誌
あすへの道 第56号
令和8年2月
編集発行 鹿児島県社会教育研究会
(県立青少年研修センター内)
T E L 099-294-2111

※ 本号から Web での公開となるため、会員名簿の掲載は行わないことといたしました。御了承ください。